

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和二年十月度 入選句 (投稿総数四千八百八十四句・小中学投句数三千五百四十六句)

特選

みのむしがなかにかくれてぶらんこだ 大垣市 稲葉 ゆうま(小二)

みのむしの特徴を見事にとらえて出来た一句です。みのむしは、蛾の幼虫で、自分でぶんぴつした糸で、枯れ葉や樹皮をつづり合わせてふくろ状の巣を作つてその中に住みます。そのまま枝に秋から冬にかけてぶらさがっています。その姿を「ぶらんこだ」と、言い切つたところがすてきです。観察がよく効いて出来た一句です。

流れ星見とれて願いわすれたよ 大垣市 谷 彩夏花(小六)

流れ星に願い事をすると言いがかなうと、昔からよく言われています。正確には、「流れ星が光っている間に願い事を言うことが出来たら、その願いがかなう」とも言われます。作者は、流れ星を自分の目で実際に見れた喜びに浸っている間に、肝心の願いごとをわすれてしまったというのです。喜びと残念さが、にじみ出た読み手に共感を呼ぶ一句が出来ました。

ハイジャンプとのさまばつたかつこい 大垣市 大倉 結翔(小二)

作者は、きつと昆虫などが大好きなんでしょう。とのさまバッタが、高く飛んだ姿を見て、思わず「かつこい」と、叫んだのでしょう。とのさまバッタのジャンプ力の一点にしばって詠んだ一句ですね。確かに、とのさまバッタは、名前のように、ピンと伸びた背すじに、たくましい太もも、まだら模様の羽根と大きな目が目立つ長い顔、飛ぶ時は羽根をバサーツと大きく広げて飛ぶとい

秀逸

せみの声だんだん少なくなつてゆく 大垣市 猿田 真央(小六)

足場組み大工さんの汗光り 大垣市 坪内 哲平(小六)

いわし雲夕日の色にそまつてる 大垣市 近澤 歩果(小五)

猛暑日や烈火のごとく照りつける 高山市 田中 玲次(中三)

ほくほくのやきいも食べてあつたまる 大垣市 種村 結月(小四)

雷が地をわるようにつきささる 大垣市 小坂 佳大(小五)

さわさわとコスモスゆれるかえりみち 大垣市 島部 莉緒(小二)

くりひろいぐりばくだんふつてくる 大垣市 杉野 実咲(小二)

まんげつがぼくのうしろをついてくる 大垣市 楠 大誠(小二)

ていぼうにまっかなほのおひがんばな 大垣市 住田 紗菜(小二)

入選

あきのやまずつとのぼるとおしろだよ	大垣市	いこま	れな(小二)
秋になり緑の葉っぱ色がわり	大垣市	小川	絢聖(小三)
あつあつのやきいもたべるおいしいな	大垣市	ごとう	あやの(小三)
夜ごはんやったあさんまだうれしいな	大垣市	石谷	颯志(小三)
水てっぽう空一面に打ってみた	大垣市	外花	瑠彩(小四)
ほう丁で初めてむいた梨うまし	大垣市	高橋	有為子(小四)
しやぼん玉思いをのせてどこまでも	大垣市	生駒	俐空(小四)
夕方に家族みんなで墓参り	大垣市	川地	功暉(小六)
夏休み水とうもって遊ぶ昼	大垣市	志賀	らら(小六)
六年生慣れる間もなく大暑来る	大垣市	炭竈	玲亜(小六)

入選

最後のねプールに行って合格だ	大垣市	丸井	美空(小六)
新米がきらっと光り口の中	大垣市	清水	きなり(小五)
ひまわりが背高くさく青空だ	高山市	栗栖	桃香(中三)
むしたちがはっぱのしたでかくれんぼ	大垣市	なかはら	れん(小二)
たいふうのかぜがつよいよふきとぶよ	大垣市	上田	翔輪(小二)
バケツ稲だれが高いかせいくらべ	大垣市	高橋	愛莉(小五)
かぶとむしよなかにがさごそめがさめる	大垣市	たにかわ	とうま(小二)
ブランコでおそらとあしがくつついた	大垣市	高橋	怜(小二)
ぎんなんのにおいがくつからはなれない	大垣市	すずき	ももか(小二)
くいせ川まつ赤にそめてヒガン花	大垣市	渡部	航(小四)

選者吟

養老の孝子の墓へ木の実落つ

幹郎